

エンタ

—— 仙頭 武則

■ 映画好きの「あの子」

盟友の故青山真治監督の代表作で私のプロデュース作『EUREKA/ユリイカ』が再公開され、各地で盛況だ。京都、名古屋、横浜では舞台で話す機会を得た。今後も『爆音映画祭 in 松本』など数カ所予定している。

中高時代を宝塚で過ごしたせい、知人らは私を関西人だと疑わないのだが、出身は横浜。十四歳まで過ごしたハマっ子なのだ。ハマっ子の定義はいかなるものか。「日本国語大辞典第二版」では「横浜で生まれ育った人」との記載があり、別の辞書では「明治中ごろから使うようになった」とある。どうやら明確な定義はないようなので、当人がそう思えば、それでよいということにしておきたい。数十年ぶりに訪れた「生ま

生まれ故郷で、ふと思う



横浜での再上映会で劇場支配人の八幡温子さんと

れ故郷」の横浜だからか、舞台あいさつでは最初、珍しく少し緊張していた。でも、WOWOWに勤めていた頃の後輩が駆けつけてくれ、「お盆

された。そんな子どもだった私は、いつしか映画作りを志し、紆余曲折を経て、映画プロデューサーになった。

とはいえ平日の昼間にこんなにお客さんがいるなんて」と驚く姿について調子に乗り、内緒話も含めてしゃべり続けてしまった。司会の劇場支配人

と目が暮れた横浜の街をそぞろ歩き、ふっと立ち止まる。盟友青山真治亡き今「あの子」に胸を張って見てもらうことができる映画をこれから

から「門外不出、交流サイト(SNS)禁止」との締め言葉も頂いた。

も世に送り出す覚悟があるのか。故郷と呼ぶには少しばかり心もとない地で自問する。答えは無論、私の中にしかない。

幼少の頃の私は、三軒隣の家でロケバスがやってきた時、二日間、食い入るように撮影現場を見ていた。両親に連れられ「わが谷は緑なり

(名古屋学芸大学教授、映画プロデューサー)次回掲載は九月二十二日)

き」(一九四一年、ジョン・フォード監督)を名画座で見た時は、「瞬きもしていなかった」と、後に聞か